

アンケート調査をとおしての新採用者看護技術研修の評価

看護部教育委員会

○ 板垣伸子 森 初美

I. はじめに

院内研修の目的は組織人としての自覚を持ち、専門性を持って質の高い看護が実践できる看護職員を育成することにある。教育委員会では、経年的目標に沿った研修や医療情勢に即した研修を企画し、研修後は、研修時期・研修時間・研修内容等について評価をおこなっている。今回、安全な看護を提供するための基礎的な看護技術を取得することを目標に新採用者の看護技術研修を8回にわたり実施した。これまで新採用者の看護技術指導はプリセプターに一任していたが、今年度は、集合教育で看護技術項目別に指導看護婦（以下指導者と略す）を決め、演習を行った。そこで、新採用者研修における効果的な研修プログラムを作成することを目的に新採用者、指導者双方に看護技術研修内容についてアンケート調査を行ったので報告する。

II. 方法

1. 調査対象

平成 13 年度看護技術研修を受講した新採用者 42 名

平成 13 年度看護技術研修の指導者 37 名

2. 調査方法

調査内容は(1)研修時期(2)研修開始時間(3)研修時間(4)1グループ人数(5)指導者の人数(6)看護技術項目内容(表 1 に示す)(7)看護技術研修の必要性の7項目について4段階評価と一部記述式で無記名式のアンケート調査を実施した。集計にあたり「全くそうでない」を1点、「おおむねそうでない」を2点、「おおむねそうである」を3点、「全くそうである」を4点とし1点と2点を「不适当」、3点と4点を「适当」とした。検定にあたっては、新採用者・指導者群の各項目別の平均点を算出しt検定を用い分析した。

III. 結果

1. アンケート回収数は、新採用者 42 名中 21 名 (50%) で、指導者は 37 名中 28 名 (75.7%) であった。
2. 各調査内容における新採用者、指導者の平均点・標準偏差値の結果は表 2 に示す。4段階評価分布は図 1～図 7 に示す。各調査内容における新採用者・指導者間の有意差はみられなかった。
3. 研修時期については、「适当」と答えた人は、新採用者 21 名中 19 名 (90.5%)、指導者 28 名中 21 名 (75%) であった。「不适当」と答えた新採用者 2 名の意見としては、「輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い、採血、注射などの研修は病棟で早期に経験するので早めに研修して欲しい。」「病棟に上がる前に研修して欲しい。」であった。「不适当」と答えた指導者 7 名の意見は、「就職前の3月の時期」、「就職後のオリエンテーション期間」と早い時期での研修を希望していた。
4. 研修開始時間(16時30分)については、「适当」と答えた人は新採用者 21 名中 7 名 (33.3%)、

指導者 28 名中 18 名 (64.3%) であった。「不適當」と答えた新採用者 13 名中の 12 名 (92.3%) は開始時間を 17 時と 17 時 30 分に希望していた。「不適當」と答えた新採用者、指導者が希望する開始時間については、図 8 に示すとおりである。

5. 研修時間 (1 時間) については、「適當」と答えた人は新採用者 21 名中 20 名 (95.2%)、指導者 28 名中 24 名 (85.7%) であった。「不適當」と答えた指導者 4 名は、「個人の到達度に合わせて研修時間を延長する。」「演習内容により時間を変える。」という意見であった。
6. 1 グループの人数 (7~8 人) については、「適當」と答えた人は、新採用者 21 名中 14 名 (66.7%)、指導者 28 名中 15 名 (53.6%) であった。「不適當」と答えた人は新採用者も指導者もすべて 6 人以下の少人数グループを適當としていた。また、新採用者からは「1 グループの人数が多くて、指導者に聞きたいことが聞けなかった。」という意見があった。
7. 指導者数 (1 グループ 1 人) については、「適當」と答えた人は、新採用者 21 名中 18 名 (85.7%)、指導者 28 名中 20 名 (71.4%) であった。「不適當」と答えた人は新採用者、指導者ともに指導者を増やすことを希望していた。
8. 看護技術項目内容については、「適當」と答えた人は新採用者 21 名中 18 名 (85.7%)、指導者 28 名中 21 名 (75%) であった。「不適當」と答えた新採用者、指導者が看護技術項目の研修として必要ないと思う項目については (複数回答可)、図 9 に示すとおりである。
9. 新しく研修に加えたい看護技術項目については (複数回答可)、新採用者 21 名中 17 名 (81%)、指導者 28 名中 11 名 (39.3%) の人が回答し、結果は図 10 に示すとおりである。
10. 看護技術研修の必要性については、「必要」と答えた人は新採用者 21 名中 20 名 (95.2%)、指導者 28 名中 25 名 (89.3%) であった。「必要としない」と答えた指導者 3 名は、「研修時期が遅い。」「できて当然の技術項目である。」という意見であった。

IV. 考察

1. アンケート回収率が新採用者 50%、指導者 75.7% と低かった原因としては、アンケート配布時までに 2 ヶ月が経過していたことや回収方法を個人提出とした結果と考えられる。回収率を上げるためには調査時期、回収方法の検討が必要と考える。また、新採用者が指導者に比べ回収率が低かったことは、アンケート目的が十分理解できていないことや組織人としての自覚がこの時期はまだ乏しいためと考える。
2. 研修時期について、新採用者のほとんどが適當としているのに対し、指導者の 25% は早い時期を希望している。また、看護技術研修が必要ないと答えた指導者 2 名も研修時期の問題をあげていることから、4 月以前での技術演習を計画することも考慮する必要があると考える。
3. 研修時間については新採用者、指導者ともにおおむね適當と答えているが、研修開始時間については新採用者の 61.9% が不適當と答えている。2 ヶ月の振り返り研修時に「勤務時間内に仕事が終わらない。」という意見が多く聞かれたことから、今後、研修開始時間については検討していく必要があると考える。
4. 1 グループの人数については、「適當」と答えた人が新採用者 66.7%、指導者 53.6% と低く、新採用者、指導者ともに 6 人以下のグループ編成を希望していた。今回の 1 グループ人数は、内容にかかわらず、すべて 7~8 人で編成したため、内容によっては 1 人あたりの実習時間が十分とれなか

ったことが原因と考える。

5. 新しく研修に加えたい看護技術項目としては、指導者の回答率は 39.3%だが新採用者は 81%と高いことから、新採用者は集合教育で多くの看護技術経験を希望していると考え。また、新採用者・指導者ともに研修に加えたい項目として感染予防をあげているが、今回の調査からはその内容については明らかにすることはできなかった。それ以外の項目について新採用者は排泄の援助、清潔の援助など基礎的看護技術を希望している者が多かった。反対に指導者はこれらの項目については 1 名のみが希望しているだけであった。このことは、指導者は臨地実習時に多く経験する項目に関しては「できて当たり前」という考えがあり、特に研修の必要を感じていないと考える。それに対し新採用者は臨地実習時間が少ないことと、就職とともに一人前の看護婦として即戦力を期待されることへの不安から、基礎的看護技術の確実な習得を望んでいると考える。今後、教育委員会としてプリセプター研修で新採用者の技術に対する不安のサポートについても触れていく必要があると考えている。
6. 井部らは¹⁾厚生省の科学研究報告会で「看護実践に必要な臨床的知識・技術・態度は 3 年もしくは 4 年間の看護基礎教育で習得することは困難であり、医療ならびに福祉サービスの質の向上を確保するためには臨床研修の必修化について早急に検討を開始すべきである。」と報告している。新採用者、指導者ともにほとんどの人がその必要性は感じていることから、今年度の看護技術集合教育を企画したことは良かったと考えている。今後より効果的な新採用者研修を実施するためには、1つの看護技術演習が終了するごとに、新採用者は理解度・達成度を自己評価し研修終了後早期に内容、要望等についても調査していくことが必要であると考えている。また、自己評価した内容についてはプリセプターに伝え集合教育と現任教育との連携を円滑にすることで看護の質を向上させ、安全な看護が提供できると考える。

V. おわりに

新採用者は患者を通して学ぶ体験学習が少なく、臨床現場とのギャップを強く感じていることから、今年度はじめて新採用者の看護技術研修を集合教育として実施した。その結果、研修の必要性については新採用者、指導者ともに認めているが、内容、時期等々については多くの問題があることも明らかになった。今、教育と臨床との連携(ユニフィケーション)の必要性がいわれている中、より専門性をもって質の高い看護が提供できる看護職員を育成するためには、教育委員会として教育現場とどのような連携が必要なのか、また、何ができるのか検討していきたいと考えている。

【引用・参考文献】

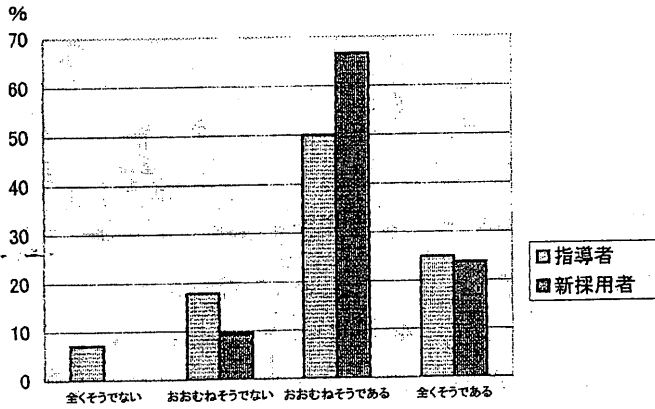
- 1) 井部俊子:看護教育における卒後臨床研修のあり方に関する研究,平成 11年度厚生省科学研究,報告会資料, p15.
- 2) 山田光子:リアリティショックの構造,第29回看護学会集録,看護教育, p45-47, 1998.
- 3) 岡田きょう子他:新採用者の就職前技術研修の有効性,第31回看護学会集録,看護管理, p33-35, 2000.
- 4) 国米由美他:新卒者看護事故の傾向からみた事故防止対策,第27回看護学会集録,看護管理, p17-20, 1996.

表1 看護技術項目

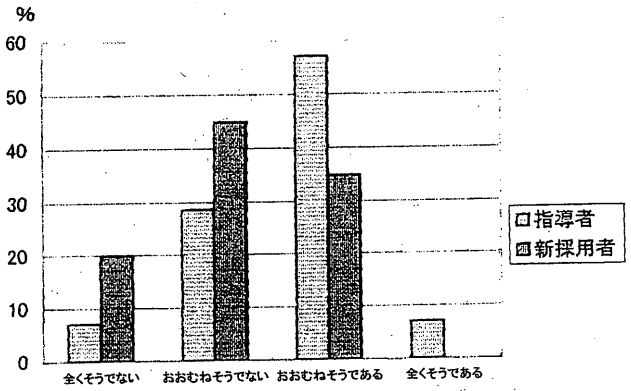
研修日	4/10	4/13	4/17	4/20	4/24	4/27	5/1	5/8
看護技術項目	採血	注射	輸血製剤の取り扱い	患者移動	ガーゼ交換	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	吸入・吸引	経管栄養

表 2 調査内容別の新採用者・指導者の平均点と標準偏差値

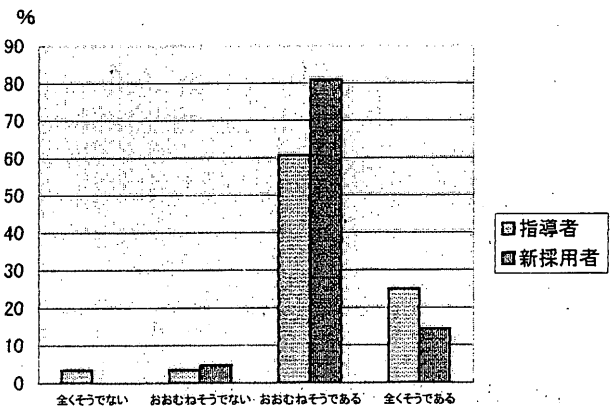
	研修時期	研修開始時間	研修時間	1グループ人数	指導者数	看護技術項目	看護技術研修の必要性
新採用者	3.09±0.62	2.15±0.74	3.09±0.43	2.71±0.56	3.09±0.43	2.95±0.39	3.75±0.44
指導者	2.92±0.85	2.64±0.73	3.07±0.71	2.5±0.69	2.85±0.71	2.85±0.53	3.46±0.69



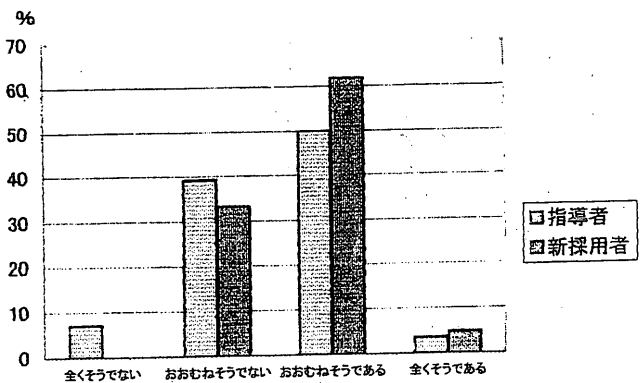
図一-1 研修時期は適当である



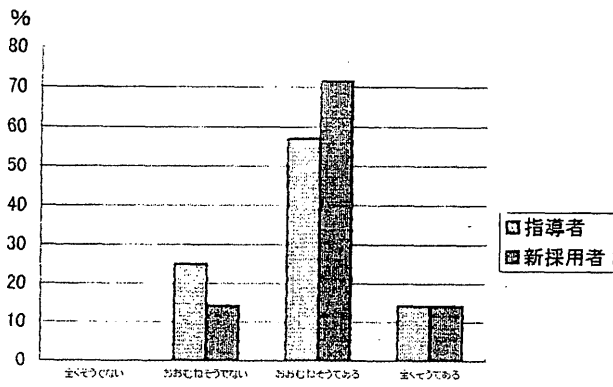
図一-2 研修開始時間は適当である



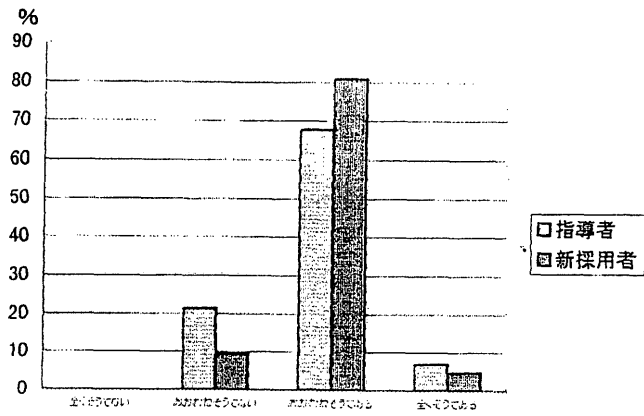
図一-3 研修時間1時間は適当である



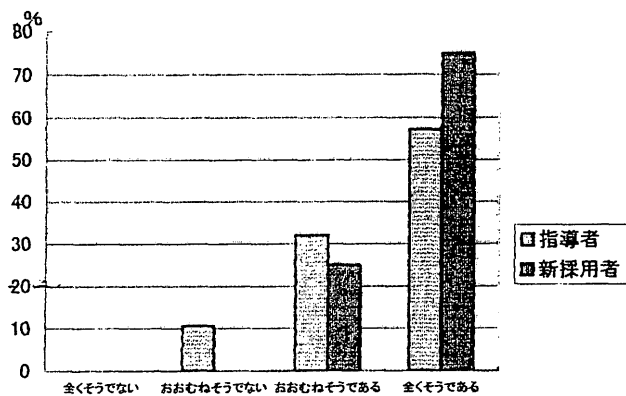
図一-4 1グループの人数(7~8人)は適当である



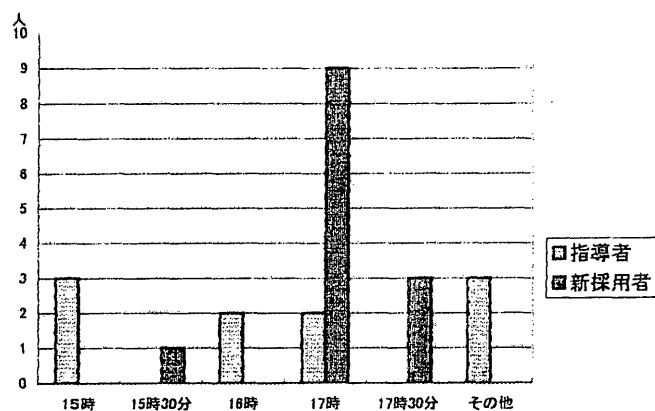
図一五 指導者の人数(5人)は適当である



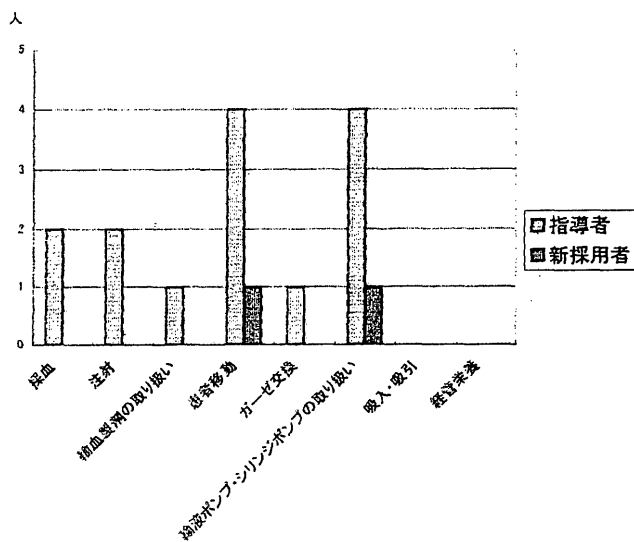
図一六 今回の看護技術項目は適当である



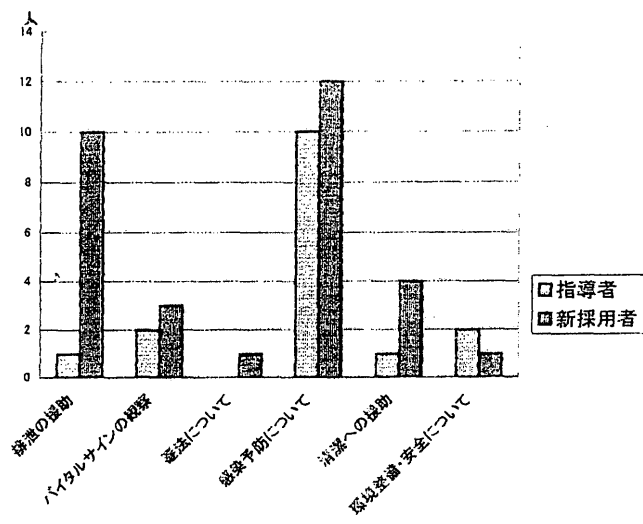
図一七 看護技術研修は今後も必要である



図八 適当と思う研修開始時間



図九 看護技術項目の中で必要と思わない項目



図一〇 新しく研修に加えたい看護技術項目